

# その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.165

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● '56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選。1期務める。小説「33年後のなんとなく、クリスタル」を'14年に河出書房新社から上梓。【公式ブログ】http://www.nippon-dream.com/



## 「移民政策で人口1億人維持」は「日本を、取り壊す。」道

### 今週の逸品



### てっさ+白子+肝垂れ

西日本では冬の「日常食」たる河豚=ふぐは下関が本場。その本場でもお目に掛かれぬ程の味わいを堪能できるのが六本木の味満。芸能界を始めとする斯界の著名人が足繁く訪れるも、「阿諛追従」という「こび

【味満】東京都港区六本木3-8-8 WOOビル1F ☎03-3408-2910 営17:00~24:00 7月8日休業 カード不可

illustration by Hajime Anzai



「2020年を中途にトレンドを変えていくことで、50年後にも1億人程度の安定的な人口構造を保持することができる」  
昨年6月24日に安倍晋三内閣で閣議決定された「骨太方針 経済財政運営と改革の基本方針」に明記されている一文です。  
「従来の少子化対策の枠組みにとらわれず」、「2020年を中途にトレンドを変えるために、抜本的な改革・変革を推進すべき時期にきている」との一節も。  
他方、今年1月20日に総務省統

計局が公表した概算値の総人口は元旦時点で1億2702万人。前年同月比で22万人減少しています。加えて、厚生労働省の「人口動態統計」では、1人の女性が生涯に産する子供の平均数を示す合計特殊出生率は2013年に1.43。「先進国」では、事故・病気等の公衆衛生を勘案すると2.07で人口は横ばいを維持します。  
事実婚II PACSの法的整備と手厚い児童手当が功を奏してEUトップに躍り出たフランスです。2.01。出産育児と職場復帰し

やすい社会環境を、どんなにか早く急に日本が整えようとも、2.07への回復は「夢のまた夢」。こうした冷徹な基本認識を国民が共有した上で、目指すべき今後の日本のあり方を議論すべきです。  
「平成25年厚生労働白書」にも掲載された国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」に拠れば、45年後の2060年に日本の総人口は8674万人。「B層」予備軍の僕には、その5年後に1億人に「急増」するとは到底、思えないのです。

にも拘らず、「人口急減・超高齢化の克服」と副題を冠した閣議決定事項「日本の未来像に関わる制度・システムの改革」に、「50年後にも1億人程度の安定的な人口構造を保持」との冒頭の文章は登場しています。ウーム、その秘策とは果たして？  
思い当たるのは、現在も内閣府HPで確認可能な以下の文書でしょう。「移民を20万人ずつ受け入れた場合1億1000万人程度を維持」との「破綻した計画経済の如き大本営発表」。それは、内閣総理大臣が議長を務める経済財政諮問会議「選択する未来」委員会で昨年2月24日、「目指すべき日本の未来」として内閣府が提出した書面なのです。  
古今東西、移民政策が成功した国家は存在しません。二万歩譲って「日本の未来、この道しかない」と信じて疑わないのなら、それは「日本を、取り戻す。」ならぬ「日本を、取り壊す。」道だ、と僕には思えます。年間20万人の移民受け入れとは、日本国籍者として参政権を彼らに付与する「選択する未来」なのですから。  
阿諛追従な「記者クラブ」メディアが、斯くなる会議資料や閣議決定を殆ど報じないなか、日本列島の鳩山由紀夫氏の「至言」を、あろう事か、現政権が追認している二ツポンを今少し考察します。